

12.4 マイマップを展開することで、地域の災害リスクを知る

マイマップは、学校や地域の人たちと、自分の目で確認しながら、地域を見直し、他の人との情報を交換しながらつくる防災マップです。つまり、実際に避難ルートを歩いてみて、支障になるもの、危険なもの、役に立つものを確認していくことに加えて、大雨が降った後での観察などが主な情報源になります。そうして出来上がった地図は自分や家族のための防災マップとなります。大事なことは作ってしまっておしまいではなく、様々な機会に育てていくことです。例えば、他で災害などがあつたら、対岸の火事としないで、自分のところで同じようなことがあつたらどうするのかなどを、みんなで話し合っておくとよいと思います。地震の時と水害の時とは、避難の方法も避難するルートも避難所も違うことがあります。役所などが発行しているハザードマップから、地域で起きやすい災害や近くの様子などを知っておくことも大事なことです。つまり、広い範囲で災害を考えながら、地域で行動するということで、安全に避難する方法が案出できますし、他地域に居たとしても同じような行動ができると思います。

マイマップは、災害時にどう避難するのか、避難ルートはどうか、そのルート上には支障となるものや危険なものがあるのかを、知るためのものであります。加えて、作成するプロセスの中に重要なものがあります。それは、様々な情報を重ねることで、価値のあるものになっていくということです。災害は自然現象と暮らしとの反応ではありますが、公式はありません。これまでも様々な経験をしてきているとはいえ、同じような被害が発現するというよりも進化してきています。それがゆえに、マイマップの作成には多くの人が実際に関わり、情報を提供しながら地域知を厚くしておくことで、災害が発生した時に多様な考え方が出来ます。そして、選択肢も多くなり適切な防災や減災につながるようになりますし、何と言っても災害への関心が向上します。また、学校での学習に取り入れることで地域との結びつきが促進されていきますし、共助の大切さについても大きく向上することになります。共助はコミュニティの劣化が指摘されて、その重要性が言われながらもその劣化防止や再興には良い手立てが見つかりません。このマイマップづくりは暮らしている人には必携ですので、災害への関心を高めていくことで世代を超えて様々な共同作業が可能だと思います。まずは学校教育の中で地域学習ということで災害を学んでいくことが一つの方法だと思います。児童や生徒から家庭へ伝達していく影響は大きいし、地域との連携が人的資源や情報提供という面で期待されるような気がしています。

マイマップを作ることで、単なる防災マップで終わらずに、そのプロセスを大事にして関心を持っていただき、ハザードマップやその他の地域情報を重ねることで、より明確な地域の災害リスクを知ると同時にその自然の恵みにも気が付いていくと思います。最近では、経験したことがないくらいの気象状況になってきていますので、災害の規模も頻度も多くなっています。マイマップを作ることを通じて、多くの人が情報を交換しながら地域コミュニティの醸成につながって欲しいと思います。